

しずおか平和の風

No.15
2016年7月25日
発行
静岡市
平和委員会
静岡市葵区鷹匠
1-5-8
TEL 253-1854
FAX 252-0785
メール
Peace-City
@mail.707.to

改憲阻止へ新たなたたかいき 憲法守れ！は多数の声

今度の参議院選は、安倍政権の暴走を止め、立憲主義、平和主義、民主主義を取り戻そうと、市民と野党が初めて力を合わせてたたかうという歴史的な選挙でした。市民と野党の共闘は大きな力を発揮し、沖縄、福島をはじめ、11の1人区で勝利するなど政権交代への展望を示す大きな成果を勝ち取りました。

しかし残念ながら結果においては、衆・参合わせて改憲勢力が三分の二の議席を占めることになりました。

安倍首相は、選挙戦を通じて憲法問題には一言も触れなかったにもかかわらず、選挙が終わると、「憲法改定は自民党の結党以来の悲願」「谷垣総裁時代に憲法改正草案を示している」として、「9条だけでなく、前文から全てを含めて変えたい」と思っている」と語っています。

しかし、国民は改憲問題を

白紙委任したわけではありませんが、共同通信の出口調査では、「安倍政権下での憲法改正」については選挙に行った国民の50%が反対し、賛成は40%だったことも抑えておく必要があります。

安倍首相は、「自分の在任中に憲法改定を行いたい」と言います。任期は2018年9月まで、あと2年と少しです。あらゆる手段を講じてくるでしょう。

最終的には国民投票となります。憲法を守る私たちの側も、あらゆる努力をしてゆく必要があります。選挙に行かなかった人に理解でき、自民党、公明党など改憲派に投票した人たちにわかるように、安倍首相の狙う改憲の身をていねいに話してゆくことが大事です。多くの国民に安倍首相が狙っているものがわかってくれば、必ず改憲は止められます。

すでに東京では、安倍自公政権の暴走を止める、都知事選がたたかわれています。参院選で野党を後押しし、共闘を成功させた「市民連合」も「野党統一候補・鳥越俊太郎」と市民がつく都政の実現へ」と声明を出し、立憲主義と平和主義と民主主義を回復し、個人の尊厳を守る政治を首都東京で実現させようと立ち上がっています。

鳥越氏が掲げる公約や安倍政権の憲法改悪や憲法破壊の暴走にストップをかける決意は、平和委員会の目指す方向と完全に一致すると指摘し、全国的な支援を呼びかけてゆくことを表明しています。

憲法を守る新たなたたかいを全力で進めましょう。

(二輪炬止)

オスプレイの訓練監視行動

東富士でオスプレイの訓練が行われ、静岡市平和委員会も2日間監視行動に参加しました。今回の訓練は、7月16



監視中腕時計に遊ぶヒョウモンチョウ

日、20日。各日7時〜22時。4機のオスプレイが離発着訓練(空挺降下を含む)を行う、というものでした。しかし、東富士で行った訓練は、7月19日の1日だけ。それも夜間に6機が離発着訓練を行っただけで、予定されていた空挺降下訓練は行われませんでした。

美術と戦争

つむじ風

少し前のことだが、県立美術館の「東西の絶景」展を見た。その時、伊藤若冲、横山大観、マネ、ゴーギャンなど洋の東西の大家に混じって徳川慶喜の小さな風景画があった。何の変哲もない田舎の景色の中に小さな家が描かれている。しかし、素人離れがした筆致の油彩画だった。明治になり暇をもてあました慶喜の道楽の一つだったのだろう。

ところで、慶喜といえば、鳥羽伏見の戦いで敗走した幕府軍を大阪城に迎え、将兵を奮い立たせる名演説をしたという武勇伝をもつ。ところが、その舌の根も乾かぬうちに一転してその夜軍艦海陽丸に乗り込んで江戸まで逃げ帰っている。そして、薩長軍に対し、恭順を表明、江戸を明け渡している。薩長軍はさらに戦争を続けたかったふしがあり、その後も東北・北海道と戦争は続いていく。多くの犠牲者を出しながら、ひとり自らの安全を考えた慶喜の処し方は情けないというほかはない。

しかし、もし慶喜が江戸で一大決戦を構えたら、戊辰戦争はさらに大勢の犠牲者を出したことは間違いない。慶喜を平和主義者だといつもりはないが、彼の絵のタッチの繊細を見ると、こういう絵を描く人は戦争は苦手かも知れない、と妙に納得してしまった。(合戸 政治)



一六三
五年、三代将軍徳川家光は、上洛の途中駿府に立ち寄り、町民に米一万石(量は諸説ある)を提供した。駿府町民が駿府城や久能山東照宮の清掃などを負担していたためだったが、年貢を巻き上げるばかりの幕府にしては異例のことであった。町民は、町ごとにそれを分配したが、端数が出たので、換金して釣鐘を铸造した。これが「時之鐘」で、両替町の鐘楼から明け六つ・暮れ六つの時を知らせ、非常時には刑法の役目も果たした。明治に入って火災に遭い、鐘楼は消失、釣鐘は市役所の倉庫に移され、文明開化の風潮の中で忘れられていた。一九一一年(明治四十四年)、谷津山西麓の清水寺がこの鐘の払い下げを受け、鐘楼も新設した。「時之鐘」はこうして蘇ったのだが、戦時中に「金属供出」されてしまった。現在の鐘は、戦後復元されたものである。戦争は、多くの文化財も失わせる。その中には、日本人が自ら棄てたものもあったのである。

清水 駿一

各校の記念誌等にみる 豊川海軍工廠

◆豊川海軍工廠に 学徒動員された学校 (静岡県下)

当時の学校名	現在の学校名
森町高等女学校	遠江総合高等学校
二俣高等女学校	天竜高等学校
浦川高等女学校	廃校
浜松市立高等女学校	浜松市立高等学校
誠信高等女学校	浜松開誠館高等学校
気賀高等女学校	浜松湖北高等学校
伊東高等女学校	伊東高等学校
焼津高等裁縫学校	焼津高等学校
見付高等女学校	磐田北高等学校

◆豊川海軍工廠のあゆみ (抜粋)

年月日【昭和】	事項
19/8/23	女子挺身勤労令公布・施行
19/11/23	米軍機、工廠を上空より写真撮影。工廠に爆撃を行う際の効果を分析
20/5/19	工廠初の被爆。指揮兵器部第一機械工場付近が被弾。30余人の犠牲者がでたという。また市内土筒・当古・雨谷にも爆弾落下し7人の犠牲者がでる。
20/7/1	工廠上空から多数のビラ(伝単)がまかれる。
20/7/15	工廠にP51(ムスタング)来襲。銃架工場被弾し負傷者あり
20/7/24	工廠上空から多数の降伏勧告ビラ(伝単)がまかれる
20/8/6	広島に原子爆弾投下される
20/8/7	豊川海軍工廠被爆。米軍B29爆撃機124機、P51戦闘機45機による爆撃を受け事実上壊滅。死者は2千5百人以上、負傷者は1万人以上とされる。

◆各校の記念誌等にみる

豊川海軍工廠の死者

- ①浦川高女
他の資料では四人の死者、
とあるが『浦川中学校二十年
のあゆみ』『浦小の百年
誌』『佐久間町史』では記
述なし。
- ②焼津高裁
卒業生・宮崎みつ江、豊
川工場に出勤中戦死。(挺
身隊員)『学園100年の
歩み』より
- ③伊東高女
井原寛子・杉本幸子(共
に四年生)戦死。『創立五
十周年記念誌』より
- ④気賀高女
山下千代子・鈴木葉子・
小山ちよ子・金子花枝、四
人の死者。『平成26年創立
100周年記念誌』より
- ⑤森高女
鈴木満貴子死亡『創立九
十周年・開校記念誌』森高
女で紡いだ青春の群像』よ
り



↑豊川海軍工廠動員生徒が
胸につけていたプレート

◆大空襲による被害

アメリカ軍は、空襲の参
考とするため、昭和19年
(1944年)に上空から
豊川海軍工廠の写真撮影を
行いました。そして、昭和
20年(1945年)8月7
日、B29爆撃機124機と
P51戦闘機45機によって豊
川海軍工廠を空襲したのだ
です。午前10時13分からわず
か30分の間に3256発も
の500ポンド爆弾(25
0キロ爆弾とも言つ。実際
には226・5kg)が落ち
され、工廠は大きな被害を
受けました。

豊川海軍工廠の空襲はす
さまじいものでした。25
00人以上の命が奪われ、

その数倍の人々がけがをし
ました。死者の中には、国
民学校の児童生徒や女子挺
身隊も含まれ、家族や友人
はこども悲しみました。こ
の空襲によって、工廠の施
設はほとんど破壊され、一
面の焼け野原となってしま
いました。このあと、豊川
海軍工廠では兵器の生産が
再開されることはなく、焼
け跡の片付けもままならな
い8月15日に終戦を迎えま
した。『カイトブック豊川
海軍工廠』豊川市平和都市
推進協議会・編より

※このカイトブックは
豊川市のホームページよ
りダウンロード可能。

読者の 詩

五月号本紙
の松永一雄さ
んの戦時中体
験談を読んだ。
戦争体験を語
り継ぐ、ある
いは最近では
大震災を

は和歌の名所となり、数多くの文人(ふ
んじん)墨変(ぼくへん)ほつかくが和歌を詠み、
紀行文(きりぎん)に記す場所となった。しかも、
豊田素吉(とよたすけ)が北条攻めの際、大軍の移動に
不便なこの道の代わり(しろかみ)に新道を建設し道
中の広い立派な道を開通させた。そして、
鳶(とび)の細道(ほそみち)はいっしょに忘れられ消え失せそ
うになっていたのである。

語り継ぐなご語り継ぎ運動」の大
切さが叫ばれてくる。
私はこのころ、この「語り継ぐ」
といふことは「昔の人と手を繋ぐ」
ことなんだと思つてようになった。
このころも最近、宇津ノ谷峠の
「鳶の細道」ハイキングに参加して
『羅径記(らけいぎ)』の碑文を読ん
だからだ。

昔の人と手を繋ぐ — 小川 雄大 —

羅(ら)の細道(ほそみち)……鳶(とび)の細道(ほそみち)
径(けい)の細道(ほそみち)……細道(ほそみち)
という意味だそうで、文政十三年
(1830)八月の日付のあるこの
石碑は、当時の駿河代官・羽倉簡堂
(はぐらかんどう)が建てたものだ
と伝えられている。簡堂は新道開通の
結果、人々の通行が途絶え忘れられ
消えかかっていた鳶の細道を惜しみ、
せめて峠道の入り口だけでも明示し
て人々の記憶にこめたいと思つた
のである。

「鳶の細道」には、簡堂(かんどう)と思わせ
ただけの歴史的文学的価値があった。古
くは平安初期(へいあんしよ)の在原業平(はらのなりへ)がこを通過
「駿河なる宇津の山辺のうつつにも夢に
も人に逢わぬなりけり」
と、京に残してきた恋人(こいびと)に現(ま)れつついつか
はもちつた夢(ゆめ)をいふも言えないといふ嘆
きの歌を詠んだ。それ以来、宇津ノ谷峠

た。「と書(か)つてみる」
弱者(じやくしゃ)と思われぬ者(もの)をいじめ、不正
が横行(ごうぎやう)するのは社会(しゃかい)全体のシステム(しすてむ)が理
不尽(ふじゆん)さを増(ま)しているとき、必ず現(ま)れる現
象(げんじやう)である。このよつな証言(しやうげん)に深く耳(みみ)を傾
け、今の私たちの生活(せいかつ)や社会(しゃかい)の中の理不
尽(ふじゆん)さを見抜(みぬ)く目(め)や耳(みみ)をしっかりと養(やしや)つてい
かなければいけないと思(おも)つた。
戦争(せんじやう)体験(たいけん)は人類(じんるい)遺産(いさん)である。